

第4学年 English time 学習指導案

令和5年2月7日(火) English time

児童数 男子12名 女子10名 計22名

指導者 教諭 永石圭一

1 単元 This is my favorite place お気に入りの場所をしょうかいしよう

2 単元について

本学年の児童は、明るく活発的な児童がいる一方で、児童によっては英語を話すことに自信がなく、声をだしてのコミュニケーションに抵抗がある児童がいる。また各教科を通して、自分の意見を述べるができるが、意見に裏付けられた理由について述べることに抵抗がある児童が見られる。年間を通して、Unit 7 what do you want の「オリジナルパフェをつくろう」等、友達や指導者と簡単なコミュニケーションを図る学習に取り組み、徐々に相手と言葉で通じ合うことの楽しさを実感してきた。児童が自信をもって話すことができるように、言語だけでなく ICT 機器やジェスチャー等も活用しながら、なんとかして自分の思いや考えを友達や指導者に伝えることができたという喜びを感じることでできる学習にしていきたい。

本学習は、教科名や教室名の言い方に慣れ親しみ、自分が気に入っている場所について伝え合うことを通して、自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりすることをねらいとしている。児童にとって、慣れ親しんだ学校のお気に入りの場所を紹介するので、なぜその場所がお気に入りなのかを紹介する際に、自分の思いを表現しやすい。自分のお気に入りの場所とその理由を楽しみながら話すことを通して、相互理解を深めようとする態度を育てるのに適している。

そこで、指導にあたっては、校内の場所の言い方や道案内のやりとりの表現に親しみやすくするために、絵カードやデジタル教材、チャンツ等を活用し、児童が楽しみながら何度も言い合ったり聞いたりする活動を充実させていく。

本時では、教室の名称や道案内の表現に慣れるために、チャンツや道案内を通して友達との関わり合いを持ちながら意欲的に学習できるようにしていく。その後ペアで校内の好きな場所とその理由を紹介し合う活動を行うことで、友達との共通点や新しい一面について知る良さに気づき、積極的に言語やジェスチャーで積極的に伝え合う態度を育てる。外国語活動の授業で行う activity「友達をお気に入りの場所へ道案内しよう」で児童がスムーズに紹介しあえるよう、コミュニケーションや校内地図の使い方に慣れることができる有意義な時間にしていく。

このような指導をすることで、本校の目指す「自分の思いを生き生きと伝え合う主体的な児童の育成」に迫ることができると考える。

3 学習計画（4回 本時4/4）

時	目標と主な活動
1	教科名や教室名の言い方を知る。
2	教室クイズやポインティングゲームをして、教室名の言い方に慣れ親しむ。
3	School chant、友達にインタビューし、誌面にある教室が好きな友達の名前を記入する。
4 (本時)	School chant、校内の好きな場所を案内し、好きな理由とともにペアで伝え合う。

4 本時の学習

(1)ねらい

教室の名称や道案内の方向を表す言葉を使って、お気に入りの場所を友達へ紹介し合うことを楽しむ。

(2)授業の視点

校内地図を使い、自分のお気に入りの場所を道案内する言語活動を行うことで、児童は、積極的に外国語を表現し、外国語を使った活動を楽しむことができるだろう。

(3)展開

過程 分	児童の活動	支援及び指導上の留意点	備考
	学習活動	HRT	
Warm up	1 Greeting あいさつをする。	○楽しくあいさつができるように心掛 け、一緒にあいさつをする。	PC
	2 Let's chant ○「School chant」を歌う。	○児童がリズムよく歌えるように、 はっきりと大きな声で一緒に歌 う。 ○児童が意欲的に活動できるよう励 ましなが、一緒に発音する。	
	3 Today's goal ○本時の課題をつかむ。	○本時のゴールを確認し、本時の課 題を児童につかませる。	POINT カード
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Today's goal 「自分の学校のお気に入りの場所」を友達に伝わりやすいよ うに工夫して、紹介しよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> Reaction Clear voice </div> </div>		
	4 Practice 学校教室等の言い方を練習する。	○黒板に絵カードを貼る。 ○絵カードを指しながらはっきりと 発音する。	絵カード

7 授業考察

(1) 授業の視点

校内地図を使い、自分のお気に入りの場所を道案内する言語活動を行うことで、児童は、積極的に外国語を表現し、外国語を使った活動を楽しむことができるだろう。

(2) 授業研究より

- ねらいに沿ったコミュニケーションポイントを子どもが考えることができていた。
- スクールマップにドットがあったことで、進み具合に差がでない工夫ができていた。また、四小の校内地図を使ったことで、位置関係をつかみやすかった。
- 自分のお気に入りの理由まで言うことで、子どもの思考につながっていた。
- Turn right/left を動作化させていたため、身に付きやすかった。
- 低学年から英語に触れていることで、子どもたちが自信をもって発音することができていた。
- △外国語活動と English time の違いを明確にする必要がある。
 - ・ English time に Today's goal を示す必要はないのではないか。
 - ・ やりとりの言葉が難しかったため、言語活動に必要な英語表現を練習する時間に時間を要した。そのため言語活動の時間を十分に確保することが難しかった。
 - ・ English time では、活動を焦点化すべきであった。(単語を楽しく練習できる活動や、間違っても教え合う形にして、やりとりの練習を行うなど)
 - ・ 振り返りはコミュニケーションポイントも意識させながら行ったが、15分間の活動であるため、「友達に伝えることができたか」を視点にするとよかった。
- △practice で体育館→gym で考えさせると、和訳と英訳が混在する。
 - ・ 和訳なしの絵カードから英語を考えさせるとよい。

(3) 今後の課題

- English time に臨むにあたり、まずは教師が活動を楽しむ姿勢をもつことが肝心である。そのため、中学年以上の English time の指導案には、単元観や指導観、児童観は除き、本時の活動と授業とのつながりが明確に記された形式にするのが良いのではないかな。
- 児童が道案内の表現に慣れ親しむために、週に1時間の外国語活動の授業のみで扱うだけでは難しかった。児童が自信をもって授業に臨むために、週に1度の English time は、必須であり、有意義であると言える。

